

■採択年度(タイプ・申請区分) ※該当の口を■にしてください。/大学名

【ASEAN 対象】 H23 (A-Ⅱ) H24 (Ⅰ) H24 (Ⅱ) 【AIMS】 H25 / 九州大学

■プログラム名

スパイラル型協働教育モデル：リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して

---以下、マレーシア・インドネシア・フィリピンに特化した内容を主に記載ください。---

■相手大学・機関(国名も記載ください)

マラヤ大学(マレーシア)、アテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)

■主な活動内容(概要)

本事業は、リーガルマインドを涵養とすることで、法の普遍的な原則を尊重すると同時に、ASEANの固有性・地域の多様性を理解し、地域を協調的発展に導く日本とASEANの懸け橋となるエキスパート人材の育成を目的とし、マレーシア、フィリピンを含む4カ国の大学を提携校として、ショートターム交流、セメスター交流及びダブル・ディグリープログラムからなる包括的交流プログラムを展開している。平成25年度までの実績として、延べ23名をマレーシア、フィリピンへ派遣し、延べ16名の学生をマレーシア、フィリピンから受入れた。ショートターム交流に参加した学生は、「コンフリクトマネジメント」や「文化遺産と文化的アイデンティティ」をテーマとして、各提携校学生と共にプレゼンテーションや議論をすることで理解を深め、またプログラムテーマに資するサイトビジット、現地の日系企業等での1dayインターンシップ及び近隣高校での日本語・日本文化紹介を実施した。本構想は交流プログラムに繰り返し参加することにより、学生の意欲や能力等を向上させ、学習効果を最大とするスパイラル型の教育モデルを特徴としている。

■プログラムの現状・課題、成功事例

(単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください)

現状・課題

- ・参加学生にJASSOの奨学金を支給しているが、JASSOの評価計算法により学内で高評価を多く受けているが、奨学金支給基準に満たない学生がいる。
- ・危機管理として、緊急連絡体制強化やコーディネーター随行の他に、現地での連絡ツールとして、携帯電話のレンタルやSNSでの連絡を実施しているが、無線LAN確保が課題となっている。
- ・学生支援経費の支出限度額が補助対象経費総額の30%以内というルールは、学生のモビリティを高める上での障壁となることから改正を希望したい。

成功事例

提携校関係者と毎年実施しているコーディネーションミーティングや、担当教員による現地提携校訪問によって円滑な連絡、状況把握が可能となっている。平成25年度には、今まで双方向で行ってきた交流プログラムを、全提携校を一堂に集めて開催し、多角的な交流を図った。これは、提携校の提案を受け実現したものであり、活発な意見交換により本構想のとおり提携校とのコンソーシアム形成による協働教育といえるものである。